



さいばいニュース

Vol.116

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

TEL 046 (882) 6980

FAX 046 (881) 2233



ホームページ

令和五年度 事業計画

サザエ種苗の積極的な販売とヒラメ放流事業の安定化・イベントの実施等をHPで発信

当協会は昭和61年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する。」ことを目的に設立され、今年で37年目を迎えることとなりました。

収束が見えつつあるコロナ禍の中でマダイ、アワビ、サザエ、トコブシ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。更に、業界の強い要望であるヒラメ種苗などの種苗を入手し放流します。

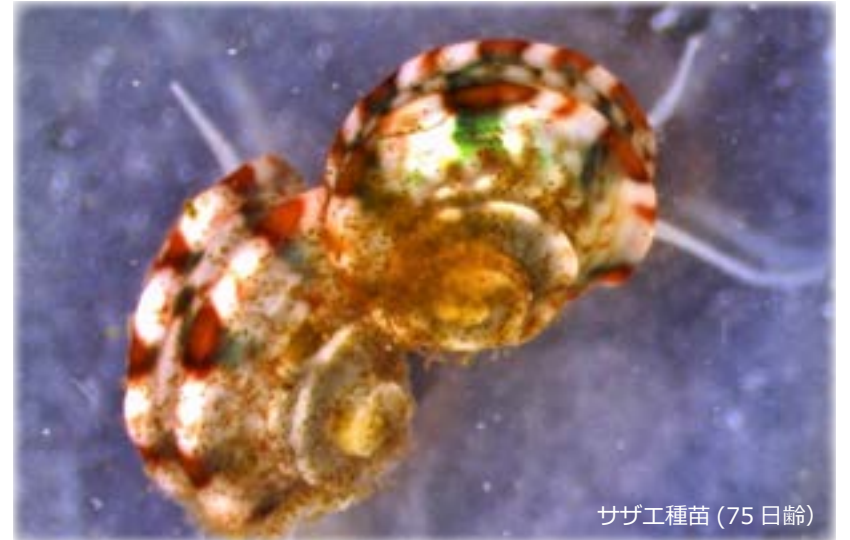
また、昨年度より開始した第8次神奈川県栽培漁業基本計画に基づき、神奈川県のカイブク事業を実施していきます。

魚類種苗生産については引き続き中間育成を協会の陸上施設で実施し、経費等の削減を図り運営改善に努めていきます。

当協会の中核事業である種苗生産・放流並びに供給事業を行うことにより神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。

そして、当協会の活動についての理解と協力が得られるよう漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。

今年もコロナ禍の中で放流イベント等の実施を行いますので感染防止対策を行っていきます。また、ホームページから協会の情報については



サザエ種苗 (75日齢)

積極的に発信をいたします。

一方、種苗供給数も県内県外の関係団体等の協力をいただき各種苗の増産を図る努力をします。また、公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会より助成金の支援によりヒラメ放流事業の安定を図ります。また、サザエ種苗の県外水産関係団体等に積極的に販売していきます。

事業の執行については、経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。

2. 事業の内容

(1) 種苗放流事業

栽培漁業協会としての放流事業

マダイ種苗放流事業

ア. 種苗生産尾数	(全長 20mm)	500,000 尾
イ. 放流尾数	(全長 60mm)	150,000 尾
ウ. 放流場所	東京湾域	50,000 尾
	三浦半島西岸域	50,000 尾
	西湘域	50,000 尾

ヒラメ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長 60mm)	60,000 尾
イ. 放流場所	東京湾域	20,000 尾
	三浦半島西岸域	20,000 尾
	西湘域	20,000 尾

種苗供給事業

事業名	種苗名(サイズ)	5年度(計画)	4年度(実績)
生産供給	アワビ (5mm)	20,000 個	20,000 個
	〃 (25mm)	150,000 個	157,140 個
	〃 (30mm)	35,000 個	32,000 個
	サザエ (15mm)	600,000 個	615,487 個
	トコブシ (20mm)	40,000 個	46,000 個
	※トコブシ(大型)	3,000 個	9,789 個
	マダイ (60mm)	200,000 尾	221,700 尾
斡旋供給	ヒラメ (60mm)	230,000 尾	251,293 尾
	マコガレイ (30mm)	35,000 尾	35,000 尾
	クロダイ (60mm)	15,000 尾	15,000 尾
	メバル (60mm)	40,000 尾	45,050 尾
	カサゴ (60mm)	180,000 尾	186,200 尾
	トラフグ (50mm)	10,000 尾	10,000 尾
	カワハギ (50mm)	23,000 尾	23,400 尾

※養殖用種苗

(2) 普及啓発事業

① PR 推進事業:「さいばいニュース」(1,500部/回、年2回)を作成し、県内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し、当協会の広報活動を実施します。また、ホームページから協会の情報については積極的に発信をしていきます。

② イベント推進事業: 今年度はコロナ禍の中で各地開催される地域イベント等を安全対策を踏まえて実施をしていきます。

(3) 調査事業

マダイ遊漁標本船調査: 県内マダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に 標本船調査を実施します。(標本船; 12隻)

(4) 種苗供給事業

① 生産供給: アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。特に、サザエ種苗を安定生産し、県外関係機関等に供給できるように取組みます。また、クロアワビ種苗の安定生産を行い県外に配布するように努めます。

② 斡旋供給: ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し、漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。

令和5年度から 県内へのサザエの販売を開始します



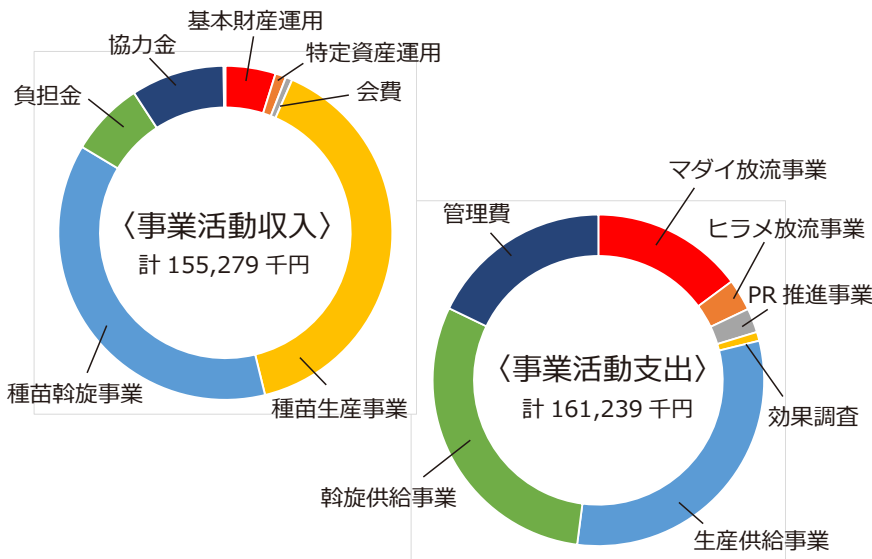
令和4年度まで水産技術センターから県下の漁業協同組合へサザエの種苗を販売してきました。令和5年度から、サザエの種苗は栽培漁業協会が販売します。水産技術センターの販売単価は25円でしたが栽培漁業協会では、人件費等の経費の関係上値上げを予定しています。

漁業者の皆様のご理解のうえ、安定供給に努めて参ります。



令和5年度予算

事業活動収入	千円	割合(%)	事業活動支出	千円	割合(%)
基本財産運用	7,561	4.9	マダイ放流事業	23,929	14.8
特定資産運用	1,622	1.0	ヒラメ放流事業	4,972	3.1
会費	1,000	0.6	PR推進事業	3,817	2.4
種苗生産事業	61,517	39.6	効果調査	1,398	0.9
種苗斡旋事業	58,107	37.4	生産供給事業	49,805	30.9
負担金	11,183	7.2	斡旋供給事業	48,546	30.1
協力金等	14,039	9.0	管理費	28,771	17.8
雑収入	250	0.2	計	161,239	100
計	155,279	100			



令和4年度決算報告 正味財産増減計算書

貸借対照表で基本財産と特定資産が令和3年度と令和4年度を比較すると変化しています。令和4年度第1回理事会と評議員会で基本財産の増養殖振興基金2億円を特定資産の経営安定化基金に移動する議案を承認していただきました。これは、負債が6千万円から8千万円となり、固定化してきて、自転車操業になってきたため、この解消を目的に行いました。令和4年度では、経営安定資金を崩しませんでした。神奈川県債権の評価額が国際情勢の変化で債権価格が下落したため、実価が低くなり、債権を売らずに情勢を見ることにしました。

正味財産増減計算書で特に経常費用で令和3年度から大きく変化した科目は光熱水費であり、電気料が急激に上昇したため、4,844千円増となりました。電気料を節減するため平年45KWの揚水ポンプを2台稼働していましたが、魚類の種苗生産が終了し次第1台を10月から3月まで休止しました。経常収益計が1億58,717千円、経常費用計が1億61,972千円で当期記経常増減額が3,050千円のマイナスでした。

経常外増減の部を加えて、正味財産期末残高は令和4年度が6億27,070千円、令和3年度6億43,345千円であり、その増減が16,274千円のマイナスとなりました。

令和4年度 貸借対照表概要

科目	令和4年度	令和3年度	増減
1. 資産の部			
流動資産	2,873,400	4,996,243	2,122,843
基本財産	411,170,000	617,150,000	205,980,000
特定資産	294,960,000	102,000,000	△ 192,960,000
その他固定資産	440,479	471,065	30,586
資産合計	709,443,879	724,617,308	15,173,429
2. 負債の部			
流動負債	65,956,892	65,131,628	△ 825,264
固定負債	16,416,332	16,140,222	△ 276,110
3. 正味財産の部			
指定正味財産	402,201,000	602,201,000	200,000,000
一般正味財産	224,869,655	35,164,458	△ 189,705,197
正味財産合計	627,070,655	643,345,458	16,274,803
負債及び正味財産合計	709,443,879	724,617,308	15,173,429

(単位:円)

令和4年度 正味財産増減計算書概要

科目	令和4年度	令和3年度	増減
1. 一般正味財産増減の部			
経常収益			
基本財産運用益	7,502,743	8,810,747	△ 1,308,004
特定資産運用益	1,619,133	314,000	1,305,133
受取会費	894,000	816,000	78,000
事業収益	119,405,505	113,520,916	5,884,589
受取負担金	11,183,700	11,432,710	△ 249,010
受取協力金	17,832,537	14,769,425	3,063,112
雑収入	279,941	182,676	97,265
経常収益計	158,717,559	149,846,474	8,871,085
経常費用			
事業費	137,875,334	134,614,355	3,260,979
管理費	24,097,028	22,476,478	1,620,550
経常費用計	161,972,662	157,090,833	4,881,829
当期経常増減額	△ 7,040,000	△ 7,244,359	204,359
経常外増減の部			
経常外利益計	200,000,000	0	200,000,000
一般正味財産期末残高	224,869,655	35,164,458	189,705,197
2. 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期末残高	402,201,000	608,181,000	△ 205,980,000
3. 正味財産期末残高	627,070,655	643,345,458	△ 16,274,803

(単位:円)

船蝶会・あいおいニッセイ同和損保 から寄付金

東京中日スポーツ船蝶会から92,434円を寄付していただきました。この船蝶会はスポーツ紙の紙面での釣果、釣行記などの掲載をしてきましたが、2023年2月8日をもって解散の運びとなりました。船蝶会の会員は茨城県、千葉県、東京都、横浜、横須賀、三浦、湘南、静岡各地の遊漁案内業者37軒で構成されていました。釣客が時代の流れでスポーツ紙での釣果よりもSNSなどのデジタル情報の収集に移行したためでした。そこで、解散にあたり各会員への精算手続きを完了し、会費の残金を神奈川県栽培漁業協会へ寄付していただきました。船蝶会の会員の方々にお礼申し上げます。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社より先日寄付金を贈与され、今日はその贈呈式がありました。この寄付金は、あいおいニッセイ同和損保が社員から寄せられた募金を地域社会貢献のために寄付・寄贈する活動から寄せられたものです。この寄付金は、地域の水産資源保全のために大事に使わせていただきます。募金に参加くださった関係者の方へ、この場より感謝申し上げます。



pick up! 種苗放流



1月20日(金)
大黒海づり
施設で
カサゴ稚魚
5,000尾放流
(一社)
日本釣用品
工業会)



5月10日(水)
浦賀で
カワハギ稚魚
5,000尾放流
(公財)日本釣振興会本部
と
(一財)東京湾南部水産
振興事業団)

5月20日(土)
葉山でヒラメ稚魚放流
地元小学生の体験放流200尾を
含む5,000尾。
(公財)相模湾水産振興事業団と
葉山町漁協)



6月11日(土)
長井で
ヒラメ稚魚
5,000尾放流
(地球の未来を
考える会WAFaと
(公財)日本
釣振興会
神奈川県支部)



アワビ

アワビは、昨年度より更に早期採卵した種苗でとても成長が早く、歩留まりも非常に良くなっています。それ以外の種苗でも、剥離作業のタイミングを調整することで小さい個体を淘汰し、効率よく強く大きな種苗を残すように工夫しています。今後は、採苗時の波板付着数を調整して生産初期の歩留まりを上げられるよう、取り組んでいきます。



トコブシ

トコブシは、中間育成時にシェルターの置き方を工夫して、場所をとらずに大型種苗を作ることができました。そのため、漁業者が加工して販売する養殖用トコブシも安定して出荷できるようになりました。



サザエ

サザエは、5年度から県内用種苗の生産が始まるため、更なる大量生産が必要になります。また、県内用種苗は県外よりも大型のため、収容密度を調整しながら生産していきます。

令和4年度の貝類生産状況と今後の展望

栽培漁業って何③④

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 今井 利為

マダイ⑮

マダイ種苗生産経費とその財源

令和4年度のマダイ種苗生産経費は担当職員の給与手当、消耗品、光熱水料費、餌飼料費などの支出を合わせると22,559千円がかかっていました。特に、電気料金が令和3年度と比較すると33%以上の値上がりで、栽培漁業協会の経営に大きな影響を与えています。

神奈川県は、マダイの種苗生産に関わる財源は、漁業者と漁業協同組合の負担金と遊漁船協力金そしてマダイ釣り人・遊漁船協力金を充てています。平成22年度から国及び県からの補助金はありません。

マダイ遊漁者協力金は、平成13年度からマダイ遊漁船に乗船する釣り人から1回200円をご協力願っていますが、マダイ釣り人の数に比べてご協力頂いている割合が十分ではないと思っています。マダイの種苗放流によって確実にマダイの資源が維持されていて、神奈川県で漁業と遊漁を合わせた捕獲量は100トン前後を保っています。このうち約半分が放流由来の捕獲物であることから皆様の協力なしでは今の資源を維持することはできません。

放流された種苗は、海の中では無主物です。お金を出して放流した人が独占して獲る権利はありません。

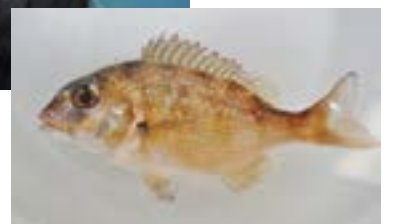
海の資源をこれからも獲りつづけるためには、獲り過ぎはしない、沿岸の浅場である干潟・海藻を回復し、魚が自然に増えていく仕組みを再生していく必要が

あります。それに加えて、一旦減ってしまった資源を維持するためには、人工種苗を放流する必要があり、これからもマダイ種苗放流事業を続けていく必要があります。

そのため資金を皆様方のご支援、ご協力のもと公平に負担していただき、持続的に資源を維持していく必要があると思っています。どうぞ、マダイ釣り人協力金などのご寄付をよろしくお願いいたします。



放流時の
取り上げ作業



マダイ稚魚

かながわ漁協探訪 ~横須賀市東部漁業協同組合~



横須賀市東部漁業協同組合には、横須賀支所・走水大津支所・鴨居支所・浦賀久比里支所・久里浜支所・北下浦支所があり、マコガレイ・アナゴ・コノシロ・タコ・ノリ・ワカメ・コンブなど幅広い種類の水揚げがあります。

近年では、高齢化と新規加入が促進されないため漁業者が減少しています。漁法としては底引き網や巻き網のほか、はえ縄、釣り、潜水、海藻類の養殖があり、最近では遊漁が増加しています。

変わりゆく魚種

従来の主要魚種であるマコガレイ・アナゴ・スズキ・タイがあまり獲れなくなり、代わりにタチウオが増えていて、タチウオ漁をしている船が稼ぎ頭になっているとか。潮干狩りで有名な走水では、アサリ不足でこの3年潮干狩りを中止している状況。鴨居や横須賀で多かったタコも、エサとなる甲殻類が減ったせいか低迷。北下浦ではカラスミ用のボラで稼いでいたが、大型の魚が減り、メスのボラ自体が獲れなくなっているそう。海藻養殖も、種糸期にアイゴ・クサフグ・ボラなどに食べられて従来の2~3割まで減少。今までは冬期に水温が下がって魚の食い気も下がっていたけれど、海水温が上昇して食い気が落ちるのが要因。このまま厳しい状態が続けば更に漁業者が減ることが危惧されます。



神経締めされたスズキ。これで長時間鮮度が保たれる。
QRコード：朝どれの魚が当日中に届くサービスもある。

漁師さんオススメ！これから旬のお魚

状況が変わっても漁獲が安定しているのがアジ。特に浦賀水道で有名なのが金アジと呼ばれる根に居ついたアジ。脂がのって大型の金アジは、高級魚として扱われています。刺身やフライで食べるのはもちろん、タタキもオススメ。横須賀支所の漁師さんによると、コノシロと一緒にたたいて味噌を混ぜて食べると美味しいんだとか。



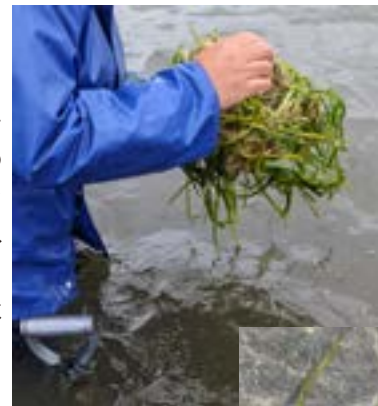
アマモの移植

＜環境保全への取り組み＞

① 昨年の夏、神奈川県立海洋科学高校の生徒が育てたアマモを株分けして当協会で栽培したところ、順調に繁殖したため年明けに株分けを行い、およそ4倍量まで殖やすことができました。そこで、もとの株の出どころである小田和湾へ移植しようということになり、5月23日に横須賀市長井にある富浦公園から広がる砂地に移植しました。その場所には以前、アマモがあったけれども消滅してしまったとのことで、今回の移植をきっかけにアマモ場が復活して魚が増えることを期待しています。

移植前には花枝も採集し、多くの種を取ることができました。この種は、アマモ水槽内で成熟させて、いずれかの場所で撒いて継代させていきたいと考えています。

移植後のアマモの様子を確認したところ、2日後にはほぼ全てのアマモが残っており、抜けかかっていた株については再度、植えなおしを行いました。更に10日後、台風2号が去った後は根付く前だったせいか半分以上が流されており、追加で数株を植えました。今後、アマモの状況を確認し、定着を図る方策を検討していく予定です。



移植時。スコップで砂を掘り、そこに根が絡まった株の塊を植えていきます。



後日確認に行くと、きれいに植えられたアマモの姿が。



編集後記

漁協探訪で横須賀市東部漁協を訪れた日、水揚げも見学しようと思い早めに生簀へ行くと中身は空っぽ。職員に聞くと濁っている上にミズクラゲが多すぎて半月ほど船が出ていないんだとか。巻き網は操業しているけれど、やはりクラゲが多くて高齢の漁師には過酷な操業とのこと。水温が上がったことにより、海底からプランクトンが沸いているのが原因。相模湾でも濁りが出ている。早くこの不穏な波が去ると良いのですが。



- ↑↑↑
- ① 高校生から苗を受取り
- ② 株分け時、バットから出してみると根がビッシリ
- ③ 丸々とした種